

宮城県チーム 上位入賞続出

孫世代からの応援をパワーに変えた宮城県チームは、マラソン、剣道、なぎなた（演技競技）、ウォークラリー、グラウンド・ゴルフ、ダンススポーツ、ターゲット・バードゴルフ、囲碁（団体戦・個人戦）、健康マージャンなどの種目において上位入賞を果たしました。

「なぎなた」競技の千葉真弓さんと「ウォークラリー」競技の阿部雄一郎選手より大会に参加した感想や今後の抱負についてお話を伺いましたので紹介します。



ねんりんピック栃木に参加して

なぎなた宮城県チーム監督 千葉真弓

宮城県チームは県予選で上位通過した3名石崎祥子・長倉みどり・釣谷正子選手がチームを組み、各所属教室や宮城県武道館を利用して稽古を続けてきました。特に演技競技である「しかけ・応じ」は、時間を忘れ納得するまで稽古を重ねました。

開会式前日は鬼怒川温泉に宿泊し、夜は各競技団体の方と交流し大いに盛り上がりました。4日の総合開会式は47都道府県20政令都市の1万人の入場行進に参加することができた喜びをかみしめました。

5日に焼き物で有名な益子町総合体育館で演技競技が始まり、1回戦は、ねんりんピック宮城・仙台大会優勝の香川県と対戦し、4対1で勝ち、地元栃木、青森、静岡に勝ち、決勝まで進みました。決勝戦において、東京には2対3で惜敗したものの準優勝することが出来ました。

また団体戦ではベスト16、個人戦は石崎・長倉両選手がそれぞれコート別にベスト8に入賞し、全国の仲間との楽しい出会いもあり思い出に残る「なぎなた交流大会」となりました。



ウォークラリーに参加して

ウォークラリー「みやぎ蔵王ビューティークラブ」

代表 阿部 雄一郎

我々「みやぎ蔵王ビューティークラブ」は、ねんりんピック大会出場は2011年熊本大会以来の出場で、ウォークラリーの感覚が薄れ、不安のなかこの栃木大会を迎えました。

競技になれば競技感覚が取り戻せるかなとの淡い期待のなか競技に臨みました。持ち前のチームワークのもと、きゅーびーコース（高齢者の部）で5位に入ることが出来ました。

競技に入り、コース前半は何とかが天気は持ちましたが、後半に入り雨が強くなり、寒さが加わり悪コンディションのもと、5位入賞。まあまあだと全員納得しています。それにしても上位チームの頑張り、精神力には頭が下がる思いです。

また出場する機会がありましたら、これらのチームに負けない精神力とチームワークのもと、上位を目指し頑張りたいと思っています。

最後になりますが、那須町の競技運営に携わっていただきました皆様に感謝を申し上げます。



いざ上野国・下野国栃木へ

宮城県選手団は総勢146人（役員7人含む）。総合開会式及び卓球・テニス・剣道・将棋など22種目の競技に参加するため、開会式前日の10月3日に仙台から栃木に向け出発しました。

横断幕を掲げて選手団が堂々の入場

総合開会式は、栃木県総合運動公園陸上競技場で開催され、常陸宮同妃両殿下ご臨席のもと、いよいよ選手団の入場。「がんばれ宮城県」と書かれた横断幕を掲げ、元気よく入場行進しました。選手団整列後、五輪の聖火にあたる「炬火」をランナーがリレー。アンカーは栃木県出身の「ガッツ石松」親子が務め炬火台に点火しました。会場の雰囲気盛り上がる中、選手団代表とボランティア代表が「健康長寿とちぎ元気宣言」を高らかに宣誓しました。

素晴らしいパフォーマンスに感動

メインアトラクションでは栃木県の、伝統の開花、自然の開花、元気の開花、長寿の花開、花で各シーンをつないでおり、まるで五輪のような華々しく、とても心に残る開会式でした。

競技開始・いざ決戦の場へ

競技関係は5日から栃木県内を中心に各市町で2日間にわたり開催されました。

選手達に移動の疲れが心配されましたが、鍛錬された肉体からは微塵も見られず、競技開始を願う選手たちで話題は競技のこと一色でした。



シニア世代の健康と福祉の祭典 『ねんりんピック 栃木2014』 レポート

感動の総合閉会式

平成27年度は 山口大会へ

4日間にわたり競技関係を終了し、7日は栃木県総合文化センターメインホールで総合閉会式が開催されました。

ふれあい交流から生まれた思い出や、ねんりんピックの意義を改めて確認するに相応しい式典でした。

来年開催は山口大会です。大会旗が栃木県から山口県に手渡され、ふれあいの輪が引き継がれました。

山口大会においても、多くの人々とのふれ合いにより、世代を超えた交流が芽生えるように、全国から参加される方々と交流し、絆を深めていきたいと思えます。



選手の思いも自然の力には 勝てず・残念

台風18号の影響で、大会初日より雨模様。屋外競技が次々と予定変更され実施。また、競技の中止の判断が相次いで選手たちに告げられました。選手たちは、宮城県代表として参加しており、悔し涙を浮かべている選手も数多くみられました。選手たちの技量・思いも自然の力には勝てなかった大会でもあり残念でしたが、反面、白熱した競技を展開し更に、競技を終えると対戦相手と積極的に労をねぎらいながら絆を深めている姿も見られています。

かわいい応援団！

～とちまるキッズ～

開会式待機場の硬式野球場には、かわいい子ども達が応援横断幕を掲げてお出迎えしてくれました。

彼らは、「ねんりん・とちまるキッズ」宇都宮市内の姿川第一小学校4年生の児童13人です。

「ねんりんピック栃木2014世代間交流運動」で、参加都道府県の選手を専属に応援するものです。

事前に宮城県の自然や文化・歴史などを学習した子ども達。選手には、孫世代からの応援とあって大変励みになりました。お礼として、鈴木隆一団長（本会会長）をはじめ、選手の方々から児童へプレゼントを手渡し、和やかな雰囲気のもと交流をしました。



「咲かせよう！長寿の花を 栃木路で」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第27回全国健康福祉祭とちぎ大会」（愛称：ねんりんピック栃木2014）が、平成26年10月4日から7日までの4日間にわたり、栃木県14市6町を舞台に開催されました。全国から1万人程の選手が集まり、宮城県からは強豪揃いの139人が22種目の競技に参加しました。ここでは、世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介します。

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2

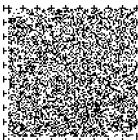
地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3

団体制度のため、有利な団体割引が適用されています。（一部適用外）



ご不明の点はお問合せください！



お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社オンワード・マエノ

TEL022(225)8476
TEL022(221)3171
TEL022(762)9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

